

2010年4月22日

報道関係者各位

No.-58113

株式会社 東陽テクニカ
東京都中央区八重洲1-1-6

東陽テクニカ、平成22年9月期第2四半期決算発表

(株)東陽テクニカ（8151：東京都中央区 渡辺洋介社長）は、本日（平成22年4月22日）午後2時、T D n e tにおいて平成22年9月期第2四半期の決算を発表しました。

概要

受注高、前年同期比9.8%増、回復基調へ

売上高は98億2千4百万円（前年同期比△10.5%）、営業利益は9億8千9百万円（前年同期比△32.4）、経常利益は11億5千3百万円（前年同期比△25.8%）となりましたが、昨年末に売却した米国子会社ClearSight Networks, Incの譲渡益13億5千8百万円を特別利益に計上したことから当期純利益は18億2千2百万円（前年同期比+114.5%）となりました。

売上動向

研究開発投資、回復基調へ

輸入売上高は91億4千5百万円で、前年同期比10.7%の減収、輸出売上高は5億7千7百万円で、前年同期比10.6%の増収でした。

主要分野の前年同期比は情報通信分野が5.3%減、自動車業界向けデータ解析分野が5.6%増、EMC測定分野が29.4%減となっており、下げ止まりや増勢への転換など回復の兆しがみられるようになりました。輸出は韓国向け輸出を中心に前年同期比10.6%増と回復しつつあります。

受注動向

受注高、前年同期比9.8%の増加へ

当第2四半期（平成21年10月～平成22年3月）の受注高は、97億9千4百万円で前年同期比9.8%の増加となりました。受注の回復局面に入ったものと見ております。

売上総利益率

当第2四半期（平成21年10月～平成22年3月）は前年同期比1.4%ポイント低下しました。これは、利益率が相対的に低い韓国向け輸出の売上に占める割合が増加したためです。当第2四半期の平均為替レートは対ドルで91円（前年同期95円）、対ユーロで130円（前年同期126円）でした。

経費

経費は34.6億円で、前年同期に比して5.4%の減少となりました。連結対象子会社が減少したことによるものです。

連結対象子会社

CLEARLIGHT NETWORKS社（米国）

昨年12月28日付で同社を米国Fluke Networks社に売却いたしました。

通期予想

当第2四半期の日本経済は徐々に回復の兆しを見せ始めており、研究開発投資についても積極的な動きがみられ、第3四半期以降も継続の可能性が高いと予想しております。このため、通期の予想を修正し、以下のとおりとします。

なお、予想年間配当金は単体の当期純利益に連動しておりましたものを、連結の当期純利益に連動させることとしました。これは連結ベースで企業業績を評価することが一般的となっていることに対応したものです。なお、当期純利益の60%を目処に配当金とすることは変わりません。この結果、当期純利益が20億円となった場合の一株当たり予想当期配当金は54円（うち、中間配当金6円、過年度の特別配当金の当期支払い分13円）となります。

通期

売上高 185億円、営業利益 12億円、経常利益 15億円、当期純利益 20億円

このプレスリリースに関するお問い合わせは下記まで

株式会社 東陽テクニカ 経営企画室 （トトキ） 十時

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 E-Mail:totoki@toyo.co.jp